

第 1 回 香川県道路啓開計画協議会 議事録要旨

■ 第 1 回 香川県道路啓開計画協議会 資料目次

1. 香川県道路啓開計画の目的等について
 1. 1 香川県で想定される地震・津波被害の公表状況
 1. 2 道路啓開の概要
 1. 3 南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画の概要
 1. 4 四国広域道路啓開計画の概要
 1. 5 香川県道路啓開計画策定の目的
 1. 6 香川県道路啓開計画策定の位置付け
2. 香川県道路啓開計画の検討項目等について
 2. 1 香川県道路啓開計画策定協議会の検討内容(検討事項・位置付け)
 2. 2 道路啓開の目標
 2. 3 関係機関の役割
 2. 4 道路啓開ルート
 2. 5 被害情報の収集と道路啓開状況の情報提供
 2. 6 道路啓開の実施
 2. 7 道路啓開実施者の割付
3. 今後の進め方について
 3. 1 スケジュール(案)
4. その他

■ 議事

(1) 香川県道路啓開計画の目的等について

■ 資料の説明

事務局：資料 3 の説明 (P1～P13)

四国地方整備局道路部道路管理課長：四国広域道路啓開計画のご説明

■ ご意見・ご質問

・香川県 危機管理総局 危機管理課長：今回の道路啓開計画は、香川県地域防災計画の実行性をより高めるためのものと認識しているので、双方の内容について整合を図って頂きたいと考えている。救助や物資の搬送において、基幹となる道路の復旧を行うことは重要と考えている。この計画が実効性のあるものになるようお願いしたい。

(2) 香川県道路啓開計画の検討項目等について

■資料の説明

事務局：資料3の説明（P14～P26の説明）

■ご意見・ご質問

・香川県 健康福祉部 医務国保課長：災害時における医療の特徴としては、需要と供給の不均衡が懸念される。香川県では災害拠点病院を9院指定しており、災害拠点としての機能を具備している（耐震化、DMAT 配備、食料の備蓄等）。人命救助の迅速化のため拠点の啓開優先度を上げていただきたいと考えているが、優先度については、重機や作業員等の容量と道路被害の供給と需要を踏まえて検討していく必要があると考えているので、その点について今後、議論させていただきたい。

・香川県建設業協会 理事：道路啓開を行う上で、ご遺体等の対応に直面するのは我々建設業者であり、それぞれの対応についてどうするのかという質問が会員企業からは必ず出てくるものと考えている。重機は現場にあるので、重機を啓開場所まで回送する必要がある。重機が通る場所が渋滞になっていると現場まで通常通りの移動時間で到着することが難しい。重機が存在する箇所は随時変わっている等の状況が想定されるため、このような状況発生時の対応方法について検討が必要と考えている。また、啓開方法について定期的に周知していくことも、発災時の迅速な作業に必要と考えている。

・事務局：行動計画として各支障物についての具体の対応を整理してきたいと考えている。その中で緊急車両を優先的に通すような対応も考えている。建設業者の割り付けについては、各支部で柔軟に対応できるようなエリア設定を考えているが、建設業協会さんのご意見を踏まえて、今後検討していきたいと考えている。また、啓開幅員については、大型車を考慮して5.5mが必要と考えているが、各道路管理者の意見を踏まえて設定したいと考えている。

・本州四国連絡高速道路(株) 坂出管理センター計画課長代理：業者のブロック割りは四国広域道路啓開計画と重複しないように調整頂きたい。

・香川県警察本部 交通部 交通規制課：四国広域道路啓開計画と本計画の整合をしっかりと図ってほしい。道路啓開ができなければ、緊急交通路の指定ができないので、緊急交通路としての役割も踏まえて啓開ルートを検討頂きたい。

・事務局：被災状況を想定し、どのくらいの時間で啓開が可能かを試算したうえで、啓開目標時間やルート等を設定していきたいと考えている。

以上

第2回香川県道路啓開計画協議会 議事要旨

■ 協議会実施状況



■ 第2回香川県道路啓開計画協議会 資料目次

1. 啓開ルート(案)の設定
 - 1.1 拠点の設定
 - 1.2 拠点の優先度の設定
 - 1.3 拠点の設定と優先度設定結果
 - 1.4 啓開ルートの設定
 - 1.5 啓開ルート(案)
2. 道路の被害想定
 - 2.1 被害想定項目
 - 2.2 被害想定
 - 2.3 啓開ルート(案)上の被害想定箇所
 - 2.4 被害想定量の算定結果
3. 今後の予定
 - 3.1 今後の検討内容
 - 3.2 スケジュール(案)

■ 議事

(1) 啓開ルートの設定について

■ 資料の説明

事務局：資料4の説明（P1～P9）

■ご意見・ご質問

・香川県 健康福祉部 医務国保課長：災害拠点病院の重要度について、48時間以内で重傷患者の救助・治療を行うことを目標としているため、第1次拠点にすることや、第2次拠点の中でも優先度高くする等、優先度についてご配慮頂きたい。また、複数ある災害拠点病院の中でもいくつか限定して第1次拠点にする等、工夫して頂きたい。

・事務局：第1次拠点と第2次拠点の考え方はP5に示した通りである。本日の道路啓開計画案では、地域防災計画の防災拠点は第2次拠点として提示している。医療施設については、救命の72時間以内という目標も一定満たしているため第2次拠点として提示した。事務局で、“命を守る”観点からも改めて検討し、素案作成時には反映したものを提示したい。

・香川県 危機管理総局 危機管理課長：物資拠点について、サンメッセ香川を第1次拠点として指定しているが、サンメッセ香川が災害の影響で利用できない場合の支援施設として、民間の物流施設を6施設ほど指定している（増える可能性もある）。内閣府の具体計画にも反映する予定であり、早期の道路啓開が必要と考えられるので、道路啓開計画においてもご配慮頂きたい。

・事務局：サンメッセ香川の代替的施設は、内閣府の具体計画で新たに位置付けされるということであるが、全ての施設を本道路啓開計画の拠点として位置付けるのか、重要度をどうするか、サンメッセ香川の被害が明らかになった後に拠点として位置付けるのか等、今後検討を重ねる。

・香川県 土木部長：熊本地震の際は物資の輸送において混乱が生じたことも考慮し、物資拠点における輸送の優位性の観点からも、事務局にて検討するようお願いする。

・香川大学 危機管理先端教育研究センター長：第1次啓開ルートについて24時間での啓開完了を目標としているが、例えば夜間に地震が発生した場合でも24時間で啓開完了できるのか。また、概ねとはどのくらいのことを指すのか。第1次啓開ルートの中でも、優先させるルートを決める必要があるのではないか。

・事務局：内閣府の具体計画および四国広域道路啓開計画の目標を踏まえるなどしており、まずは目標を24時間での啓開を目指すこととしている。また、本日資料では記載を省略しているが、発災時刻によって、啓開に必要な時間は変動する可能性はあると考えている。“概ね”の啓開の程度については次の議事でも説明する。

・香川大学 危機管理先端教育研究センター長：その辺の事項については香川県建設業協会の方が一番ご存知であり、重機を持ってくるのに1日要する、津波警報が発令中は沿岸部付近に近付かないようにするため十分な動きをすることはできない等、被害にもよるが大変困難だと考える。

・事務局：時間帯や浸水想定区域内かどうかによって活動できない場合があるので、それを踏まえて啓開目標の表現について検討したい。

・香川県 健康福祉部 健康福祉総務課長：第1次啓開ルートについて、隣接県との連続性は確保されているのか。特に瀬戸大橋での連続性は確保されているのか。

・事務局：内閣府の具体計画の緊急輸送ルート、四国広域道路啓開計画の進出ルート等の高速道路、本四高速等の県を跨ぐ第1次啓開ルートとして指定しているため、隣接県との連続性は確保されているものと認識している。

(2) 道路の被害想定について

■資料の説明

事務局：資料4の説明（P10～P20の説明）

■ご意見・ご質問

・本州四国連絡高速道路(株)坂出管理センター所長：資料P13の橋梁被害について、支障の逸脱と橋梁背面の沈下の発生は別のものということによろしいか。

・事務局：支障の逸脱は、道路橋示方書の適用年度により発生有無を判断しており、橋梁背面の沈下は液状化危険度により発生有無を判断しているため、別のものという扱いである。

・本州四国連絡高速道路(株)坂出管理センター所長：平成8年以前の橋梁については、被害が出るものとしているのか。本州四国連絡橋は昭和63年に完成しているため、これらの基準に従うと、かなり多くの被害が想定される。そのため、道路啓開については優先的に実施頂くようご配慮頂きたい。耐震化は平成32年を目標としている。

・事務局：本州四国連絡橋は、岡山県と香川県を結ぶ重要路線であり強度の高い橋梁と思料し、甚大な被害は出ないと想定していた。指摘事項について、今後の扱いを検討する。

・香川県建設業協会 理事：道路啓開において簡易のマニュアル（手順書等）を作成頂きたい。実際は支部に様々な問合せが来ると予想されるため、啓開幅員の5.5mを確保するための対応方法等を協会員に周知する必要がある。また、現在の協定は災害が発生してから建設業協会に要請が来るようになっているが、これだけの被害となると要請があつてからでは目標時間内に道路啓開が間に合わないことも想定される。自動的に支部の判断で動く必要がある場合は協定の改定も必要と考える。発動時のマニュアル（手順書等）の作成をお願いしたい。

事務局：啓開の実施方法等に関しては、事務局としてもとりまとめを行い、検討していきたいと考えている。その詳細については、この後の議事「今後の予定」のところで残りの検討項目を説明する。また、県と県建設業協会との災害時協定に限った話になるが、現協定で対応が可能なのか、見直しの必要があるのかは今後の検討課題だと考える。

・香川大学 危機管理先端教育研究センター長：啓開速度について、東日本大震災の事例を基に算出していると記載されているが、ご遺体や負傷者がいる場合もあると思う。それらについても考慮した啓開速度なのか。

・事務局：ご遺体や負傷者がいる場合、想像以上に道路啓開は進まない想定される。ご遺体、負傷者の基本的な取り扱いや、警察、消防、自衛隊との連携については手順として整理し、次回の協議会で示させて頂く。また、今回算出した啓開速度には、ご遺体や負傷者の事象も考慮し、東日本大震災の実績値を踏まえた啓開速度を採用した。

(3) 今後の進め方について

事務局：資料4の説明（P21～P23の説明）。3月に次回協議会を予定している。

■ご意見・ご質問

・香川大学 危機管理先端教育研究センター長：第1次啓開ルートについて、内閣府の具体計画等を考慮することは大切だが、熊本地震の実績について、まずは救命、避難、負傷者の搬送などが重要である。そのため、それらの目的を担うルートを検討すべきである。また、具体的に啓開実施者を割付すると思うが、その際に、具体的に実施していくためのアクションプラン（手順書等）を想定して頂きたい。

・香川県 土木部長：熊本地震の時は、物資が避難者まで届いていないという現状があった。そのような点も考慮して頂きたい。

・事務局：物資拠点から避難者への物資の配送そのものについては、道路啓開実施者が直接行うわけではないが、啓開作業にあたり連絡体制を密にして、物資の輸送路の確保という役割を担えるよう留意したい。

・香川県建設業協会 理事：他の市町等からの依頼により、建設業協会員を対応に割く必要が出てくる等の不安要素がある。そのため、道路啓開にかなり手厚い割付をお願いしたい。また、業者にも適材適所があるため、有効性が発揮されるような割付をする必要がある。さらに、夜間に発災した場合は、夜間に啓開活動を行うほうが良いのか、夜間はパトロールに止めて夜が明けてから啓開活動を行う方がよいのか等も検討が必要である。夜中の啓開活動は現実的に難しい、被

災情報を把握してから啓開するほうが効率的かもしれない。協会の安全に配慮する必要もある。それらも踏まえてマニュアル（手順書等）を検討頂きたい。

・事務局：その点について、考慮して検討を進める。

（４）その他

事務局：頂いた意見を踏まえ、さらに検討を進めていく。

以上